

31年2月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成31年 2月1日～ 31年2月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
仕入動向	国産材製材品	△ 33.3	△ 27.8	△ 5.6
	外材製材品	△ 38.9	△ 38.9	△ 16.7
	構造用集成材	△ 25.0	△ 18.8	△ 18.8
消費動向	国産材製材品	△ 33.3	△ 27.8	△ 5.6
	外材製材品	△ 38.9	△ 22.2	△ 11.1
	構造用集成材	△ 42.9	△ 14.3	△ 7.1
在庫動向	国産材製材品	△ 27.8	△ 22.2	△ 5.6
	外材製材品	△ 16.7	△ 22.2	△ 12.5
	構造用集成材	△ 12.5	△ 12.5	△ 6.3

・プレカット加工用部材の仕入、消費、在庫動向は国産材、外材製材品、構造用集成材とも3カ月連続減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
受注	△ 16.7	△ 16.7	△ 5.6
加工	△ 22.2	△ 16.7	△ 5.6
受注残	△ 33.3	△ 11.1	5.6

・プレカット工場の受注、加工の動向は3カ月連続減少。受注残の動向は2月、3月の減少から4月は増加に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入、消費、在庫と共にで時節柄低調。
- ・国産材製品以外は、この先仕入を減らしていく。不需要期のため消費減少で推移。消費が思ったほど進まないため在庫は多め。今後は減らしていく予定。
- ・仕入、消費とも1月は非常に低調だったが2月は多忙となってきた。3月上旬に一休みがあつて4月、5月と忙しくなる見込み。基本的に在庫は持たない。

(受注動向)

- ・雪なくも、寒さ厳しく、工事量減。
- ・当月の受注が一番の底。翌月以降の受注に期待。
- ・県産材補助金が開始される新年度にかけて仕事が入ってくる。